

防災フォーラム「平成 24 年岩見沢大雪」講演会開催報告

2012 年 12 月 16 日(日)に、自然災害研究協議会北海道地区部会と日本雪氷学会北海道支部の主催で「平成 24 年岩見沢大雪」講演会を開催しました。

開催地である北海道岩見沢市は、昨冬記録的な豪雪に見舞われました。この豪雪に対して日本雪氷学会北海道支部が中心となって 2/25～3/9 にかけて広域積雪調査を行いました。今回の防災フォーラムでは、この調査結果を地域の人々に知ってもらい、役立ててもらえるよう講演会として企画したものです。

一般の人たちにとって、内容が難しかったり、興味を持てなかったりするのでは、企画の意図が伝わらないので、研究成果をわかりやすく発表するだけではなく、昨冬の大雪を振り返り、これから雪とどうつき合っていくかを一緒に考えることに、フォーラムの中心を置くように心がけました。以下に、プログラムを記します。

プログラム

・第一部

講演：「2011-2012 冬期の岩見沢の大雪を振り返る」

尾関俊浩（北海道教育大学）

・第二部

パネルディスカッション「大雪とどうつき合うか」

コーディネーター 尾関俊浩

パネリスト

堤拓哉（北海道立総合研究機構北方建築総合研究所）

井上聡（農研機構北海道農業研究センター）

須田力（北方圏体育スポーツ研究会）

小西信義（北海道大学大学院文学研究科）

○テーマ 1：あらためて除雪の問題を考える

○報告：「新しい気象庁の降雪情報」横田歩（気象庁札幌管区气象台）

○テーマ 2：これから大雪とどうつき合うか

当日は、急遽行われた衆議院議員選挙と重なってしまい、多くの市民の方々に集まっていたくにはあいにくの日程となりましたが、43 名の参加者がありました。第一部の内容は、本講演会に向けて作成した調査報告書「2011-2012 年冬期に北海道岩見沢市を中心として発生した大雪に関する調査報告書」に詳しく載っております。この報告書は、次の URL からダウンロードして閲覧することができます。

<<http://glacier.ees.hokudai.ac.jp/snow/>>

第二部では、雪かき、雪下ろしについての議論が多く話されました。堤氏からは、昨冬でも雪の重みで住宅が倒壊した例はなかったこと、雪下ろし作業での死傷者が多かったことが示されました。須田氏からは雪かきが、いかに激しい運動であり、お年寄りにとって負荷が大きいか、小西氏からは地域の除雪ボランティアの仕組みが、ボランティア活動する側の高齢化で限界を迎えている実態などの問題提起がありました。井上氏からは機械的、生理的、間接的な農業被害についての知見が示されました。また、パネリストの小西氏がフィールド研究を行っている岩見沢市美流渡より参加したお年寄りからは、小西氏にエールが送られるなど、和やかなシーンも見られました。

本講演会を開催するにあたり、岩見沢市から後援をいただき、「であえーるホール」(市民交流施設であえーる岩見沢内)を使用させていただきました。ここに御礼申し上げます。この講演会を開催するにあたりご協力いただいた皆様、岩見沢の大雪調査にご参加いただいた皆様に御礼申し上げます。

尾関俊浩 (北海道教育大学札幌校)



図 1 第一部講演会の会場風景.

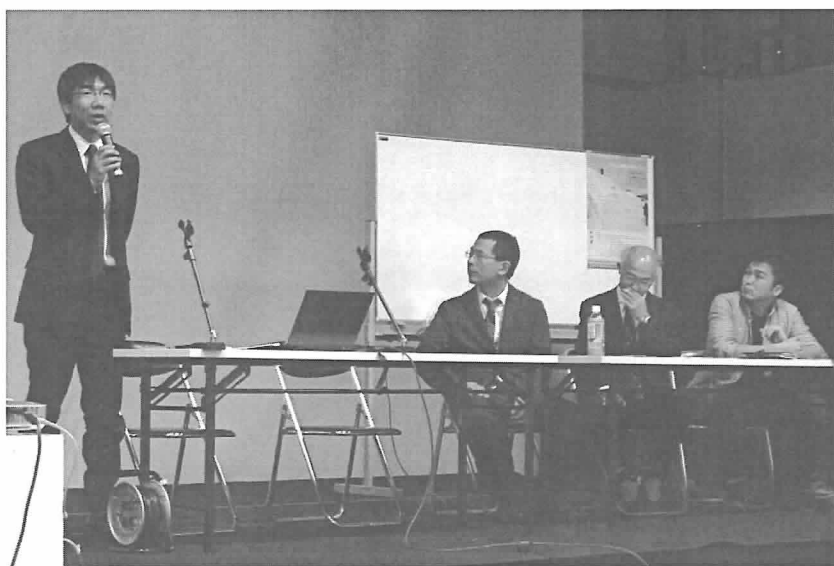


図 2 第二部パネルディスカッションの一コマ.